

**平成27年度
留学コーディネーター配置事業(インド)
委託業務成果報告書**

本報告書は、文部科学省の留学コーディネーター配置事業委託費による委託業務として、国立大学法人東京大学 が実施した平成27年度留学コーディネーター配置事業(インド)の成果を取りまとめたものです。
従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

平成28年8月

国立大学法人 東京大学

目次

1 委託業務の概要	3
2 活動内容及び成果の概要	3
2－1）留学コーディネーター（インド）委員会を活用した取組み	3
2－2）インドにおける日本留学フェア開催	3
2－3）産官学ネットワーク構築	4
3 活動内容の詳細	4
3－1）留学コーディネーター（インド）委員会の設置	4
3－2）インドにおける日本留学フェア開催・協力	5
3－2－1）9月22日（木）～26日（土）プネ・ムンバイでのイベント	5
3－2－2）10月31日（土）～11月4日（水）アーメダバード・ハイデラバードでのイベント	8
3－3）産官学ネットワークの構築	11
3－3－1）具体的な取組み：インド鉄道省派遣留学生の受入れに向けて	11
3－3－2）留学コーディネーターウェブサイトの立上げ	12
3－3－3）産業界よりインド人留学生向け奨学金の手配	13
3－3－4）その他	13
4 まとめ	14

本文

1 委託業務の概要

平成30年度（平成30年5月1日）までに、東京大学及び日本に留学するインド人留学生の数を、平成26年度（平成26年5月1日）と比較して約2倍とすることを目的に、ターゲットの分析、インドと日本のニーズ把握、関係機関との連携と情報共有等を通じた留学生獲得戦略を展開する。

2 活動内容及び成果の概要

平成27年度は、インド人留学生獲得戦略において主要なステークホルダーである文部科学省と在インド日本国大使館、さらにインドの高等教育機関関係者等と連携して、1）留学コーディネーター（インド）委員会を活用した取組み、2）インドにおける日本留学フェア開催、3）産官学ネットワーク構築の3点を中心として、主にインド側での継続的な活動基盤を構築した。それぞれの概要は次の通りである。

2-1）留学コーディネーター（インド）委員会を活用した取組み

平成26年度に立ち上げた留学コーディネーター（インド）委員会（留学コーディネーター（インド）がインドで展開する活動を主導するにあたり、諮問の機能を有する組織体）を、引きつづき開催した。具体的には、毎月第2木曜日を基本として定例会議を開催し、最新の情報共有を行いながら、優秀なインド人留学生獲得を目指したアクションプランの協議を行った。委員会の協力により、後述する日本留学フェアを無事に開催し、成功裡に終えることができた。また、他機関の取組みについても情報を共有することで、個々の取組みのシナジー効果を生むことができた。

2-2）インドにおける日本留学フェア開催

インドにおける日本の大学のプレゼンス向上からさらに、具体的なリクルート活動につなげることを念頭に置いて、日本留学フェアを企画・開催した。東京大学主催分としては合計2回、平成27年9月24日（木）にインド工科大学ボンベイ校（ムンバイ）と、平成27年10月31日（土）・11月1日（日）に Ahmedabad Management Association (AMA)（アーメダバード）で開催し、それぞれ154名、295名（セミナー130名、個別ブース相談165名）の来場者を得た。SUNDAY TIMES の4面に GUJARAT 州で初の日本留学フェアが2日間の日程で開催されたという内容が、「Cost of study in Japan lower than US, UK」との見出し付で、関係者の記念集合写真と共に

報道されている。(後述 3-2 イベント参照)

フェアの前後で現地の学校 LITTLE FLOWER HIGH SCHOOL-Hyderabad 訪問を主催し、参加学生は合計 230 人。学校訪問への参加大学（()内はそれぞれの大学からの参加人数。）は、静岡大学（1 人）、北海道大学（2 人）、立命館大学（2 人）、本学（3 人）。また他機関が主催する留学フェア等のイベントについても、企画・広報の面で協力を行った。

2-3) 産官学ネットワーク構築

産官学ネットワーク構築として具体的な連携事業としては、インド鉄道省派遣留学生の受入れに向けた取組みを、日印関係者の協力を得ながら推進している。

元々は平成 26 年 10 月鉄道省プラサド人事局長との面談時、口頭にて、同省派遣留学の 2 期生に関して、年間最大 20 名規模の受け入れについて検討の依頼を受けたことが発端である。今年度は国費外国人留学生制度を活用して平成 28 年度に最大 20 名のインド鉄道省職員を日本の大学修士課程に受け入れる日印両国政府間合意事業として発足した。諸連絡の連携、説明会場の提供、志願状況の進捗報告、留学確定者には壮行会を企画等、幹事校として協力した。

3 活動内容の詳細

3-1) 留学コーディネーター（インド）委員会の設置

平成 26 年 10 月及び 11 月を準備会として開催した後、12 月に正式に留学コーディネーター（インド）委員会として立ち上げた。立ち上げ以後、毎月第 2 木曜日に日本大使館において、定例会を開催している。定例会は主に、インドでの関連行事に関する立案や、特定の案件の実施に関して協議する場として機能している。また、インド内外の学術や動向に関する情報を、20 名以上の産官学メンバー（日本大使館、国際交流基金、JST、JASSO、JETRO、JICA、HIDA、立命館大、長岡科学技術大学、北陸先端科学技術大学院大学、JTB、Sharp 等）の間で共有している。

日時	場所	記録
4 月 9 日 (木)	日本大使館	第 5 回会議 (主な内容) 平成 27 年度の計画、特に日本留学フェア開催日程の件を中心に協議。
5 月 14 日	日本大使館	第 6 回会議

(木)		(主な内容) 平成27年度の計画、特に8月にライセンスアカデミー社が開催する留学フェアについて協議。
6月11日 (木)	日本大使館	第7回会議 (主な内容) 大使館よりのご連絡、行事日程（特に8月、9月、11月）について協議。
7月9日 (木)	日本大使館	第8回会議 (主な内容) 在インド日本大使館からのご連絡（大使館推薦国費外国人留学生募集締切後の最新情勢及び日本留学試験の反響）、8月、9月の留学フェアについて協議。
8月28日 (金)	日本大使館	第9回会議 (主な内容) 大使館よりのご連絡、8月行事レビュー、9月留学フェア一成功に向けて、その他。
10月8日 (木)	日本大使館	第10回会議 (主な内容) 平成27年度後半のイベント計画、AMITY大学が日本に進出する案件について、9月の留学フェアの振返り。
2月11日 (木)	日本大使館	第11回会議 (主な内容) 2016年度取り組み方針とイベント計画（2016年2月～12月）
3月10日 (木)	日本大使館	第12回会議 (主な内容) 来年度計画案 次の日程の確認（特に8月～11月）について：①日本留学フェア、②大学・高校訪問、③他、日本関連イベントへの参加、④インターンシップ等誘致戦略

※11月、12月開催は関係者の都合や行事の予定により中止。

3-2) インドにおける日本留学フェア開催・協力

3-2-1) 9月22日（火）～26日（土）プネ・ムンバイでのイベント

9月第3週には、以下のイベントを連続して実施できるように関係者間での連絡調整を

留学コーディネーターが中心となってい、日本からの参加大学・機関を募った。

No.	日	概要	参加人数
(1)	9月22日(火)	インド文部省留学生協会(MOSAI: Monbusho Scholars Association of India 帰国国費留学生等による団体)主催 SINHGAD College of Engineering での日本留学フェア	658名
(2)	9月23日(水)	東京大学主催 MES Bal Shikshan Mandir English Medium School and High Secondary School 訪問	230名
(3)		MOSAI 主催 MIT Pune' s Vishwashanti Gurukul International School 訪問	230名
(4)	9月24日(木)	東京大学主催 The Cathedral & John Connon School 訪問	25名
(5)		東京大学主催 インド工科大学ボンベイ校(Indian Institute of Technology Bombay (IITB)) での日本留学フェア	154名
(6)	9月25日(金)	東京大学主催 R N Podar School 訪問	1名(訪問先のスクールカウンセラーへのご挨拶)
(7)	9月26日(土)	インドインターナショナルスクール協会主催 Leadership Conference	26名

なお、それぞれのイベントへの日本からの参加大学・機関は次の通りである。

- ・ 東京大学 (1)～(7) 全て参加
- ・ 名古屋大学 (4) (5)
- ・ 大阪大学 (7)
- ・ 早稲田大学 (1)～(5), (7)
- ・ 慶応義塾大学 (1)～(7) 全て参加
- ・ 明治大学 (4) (5)
- ・ 立命館大学 (1)～(7) 全て参加

- ・ 創価大学 (1)～(5)
- ・ 日本学生支援機構 (1)～(5)
- ・ 在インド日本大使館 (1)
- ・ 在ムンバイ日本総領事館(4)～(5)
- ・ 科学技術振興機構(7)



(2)について。日本からの訪問団、先方との記念写真



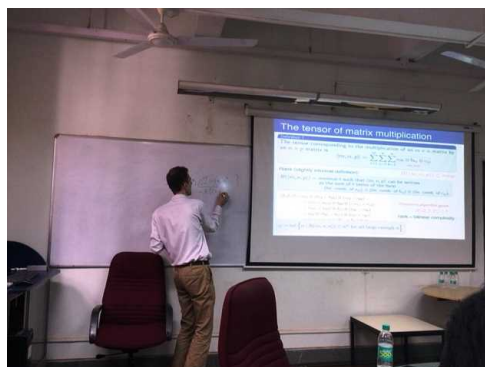
(3)について。日本からの訪問団、先方との記念写真



(4)にて挨拶をする吉野留学コーディネーター



(4)に参加した生徒たち。



(5)での模擬講義（本学ルガル准教授）の様子



(5)での本学ブースの様子

	
(7)での本学ブースの様子	(7)にて本学セミナーを受講されたカウンセラーの方々6人との記念写真

3-2-2) 10月31日(土)～11月4日(水) アーメダバード・ハイデラバードでのイベント

10月末～11月第1週目にも、日本留学フェア等一連のイベントを主催、また、他機関主催のイベントへの協力を行った。

No.	日	概要	参加人数
(1)	10月31日(土)	東京大学主催 Japan Higher Education Fair 2015 (アーメダバード) (全体セミナー・個別ブース相談をそれぞれの日に実施)	130名
(2)	11月1日(日)		165名
(3)	11月3日(火)	東京大学主催 Little Flower High School 訪問 (ハイデラバード)	230名
(4)	11月4日(水)	JICA 主催 アカデミックフェア (ハイデラバード)	200名

なお、それぞれのイベントへの日本からの参加大学・機関は次の通りである。

- ・ 北海道大学(1)～(4)全て参加
- ・ 立命館大学(1)～(4)全て参加
- ・ 静岡大学(1)～(3)
- ・ 東京大学 (1)～(4)全て参加
- ・ 早稲田大学 (2)
- ・ 在インド日本大使館 (1), (2), (4)
- ・ 在ムンバイ日本総領事館(1)
- ・ Hitachi Home &Life Solutions (India) Ltd(1)

- ・ (株) ラーニングシステム・(株) L S クリエイティブラーニング(1)～(4) 全て参加
- ・ ソニーインドソフトウェアセンター(4)
- ・ 村田製作所(4)



(1)での埼玉大学野村准教授、ラーニングシステム社講演



(2)での東京大学の個別ブースの様子



(1) (2) 終了後の在インド日本大使館児玉書記官と大学参加者との記念集合写真



(3)で学校の生徒が歓迎のために披露してくれたダンス



(3)でのロボット STEM 実習の様子



(3) 終了後の参加者全員の記念写真

	
(4) での須田教授パネルディスカッション時	(4) ロボットワークショップ (JICA 提供写真)
	
(4) 講演時 (JICA 提供写真)	(4) 東京大学のブースにて (JICA 提供写真)

特に(1)(2) 東京大学主催 Japan Higher Education Fair 2015 (アーメダバード) は、日系企業の進出が目覚ましいグジャラート州における初めての日本留学フェアであったこともあり、現地の報道機関で「日本留学のコストは英米に比較して安い」というフレーズとともに、大きく報じられた。以下は、オンラインで確認できる報道の一例である。

- ・ THE TIMES OF INDIA, Nov 1, 2015, 'Cost of study in Japan lower than US, UK'

<http://timesofindia.indiatimes.com/home/education/news/Cost-of-study-in-Japan-lower-than-US-UK/articleshow/49613967.cms>

- ・ The Statesman, Nov 4, 2015, Twice the Yen for half

<http://www.thestatesman.com/news/supplements/twice-the-yen-for-half/101223.html>

また、(4) JICA 主催アカデミックフェア (ハイデラバード) も、昨年に引きつづき、日本で学べる奨学金の機会として、現地で報道された。以下、オンラインで確認できる報道の一例である。

- ・ webindia123, Nov 5, 2015, Academic fair at IIT-Hyderabad

<http://news.webindia123.com/news/Articles/India/20151104/2718029.html>

- ・ THE HINDU, Nov 5, 2015, Ageing Japan goes all out to woo Indian Students
<http://www.thehindu.com/todays-paper/tp-national/ageing-japan-goes-all-out-to-woo-indian-students/article7843558.ece>
- ・ METRO INDIA, Nov 5, 2015, 'Study in Japan' for IITH graduates
<http://metroindia.com/lifestyle/article/05/11/2015/study-in-japan-for-iith-graduates/20648>
- ・ THE HANS INDIA, Nov 6, 2015, JICA FRIENDSHIP scholarship programme for IIT-H graduates
<http://www.thehansindia.com/posts/index/2015-11-05/JICA-FRIENDSHIP-scholarship-programme-for-IIT-H-graduates-184643>
- ・ Business Standard, Nov 5, 2015, It's Japan calling at IIT Hyderabad
http://www.business-standard.com/article/current-affairs/its-japan-calling-in-iit-hyderabad-115110501108_1.html

3－3） 産官学ネットワークの構築

3－3－1） 具体的な取組み：インド鉄道省派遣留学生の受入れに向けて

学内外の関係者との協議を行いながら、推進のための取組みを行っている。経緯と関連する主な事項は次の通りである。

経緯 (詳細は平成26年度の報告書参照のこと。)	・ 東京大学大学院工学系研究科（社会基盤学専攻修士）に、インド鉄道省からの派遣留学生1期生（2名）がADB奨学金付で入学。留学コーディネーター（インド）がインド鉄道省を訪問し、報告を行った。 ・ インド鉄道省より、今後のより大きな派遣計画への協力依頼を受けた。 ・ 協力の可能性について、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）」の採択大学等に照会を開始した。 ・ 状況について、インド側で在外公館等の関係者への報告を行い、今後の協力に関する検討を依頼した。 ・ 在インド日本大使館児玉一等書記官と一緒にインド鉄道省を訪問。プラサド人事局長とモハラナ人事課長と鉄道省派遣留学2期生受け入れに関し協議した。 ・ 在インド日本大使館児玉一等書記官、東京大学工学系研究科社会基盤学専攻前川宏一教授と一緒にインド鉄道省を訪問し、具体的な派遣計画研究希望テーマを聴取した。
-------------------------------------	--

平成 27 年 6 月	インド・デリー（JICA インドオフィス）と東京（東京大学本郷キャンパス本部棟）を TV 会議システムで接続し、文部科学省や在インド日本大使館、JICA 等からの、日本の受入れ候補大学に対する説明が実施された。
平成 27 年 10 月	日本の受入れ候補大学のうち北海道大学、長岡技術大学、立命館大学、埼玉大学、東京大学が参加して、鉄道省の留学候補者との交流会をインド鉄道省（デリー）にて実施した。
平成 27 年 11 ～平成 28 年 1 月	日本の受入れ候補大学にて、インド鉄道省の推薦を受け、文部科学省経由で提示された候補者の受入れ可否を検討。
平成 28 年 2 ～3 月	・ 鉄道省主催にて 4 月派遣留学予定者の壮行会が開催され、在インド日本大使館および日本の受入れ大学が参加して激励した。 ・ インド IT 企業とのインターンシップ提携、日印間の戦略的なインターンシップのスキーム作りに向けて文科省および企業を含めた関係機関による協議を開始した。

インドの鉄道技術人材育成を自ら提唱して産官学にて 2012 年度より取り組んだ結果、2013 年 9 月デリーメトロ公社より 1 名、2014 年 9 月鉄道省より 2 名の私費留学生を修士課程に獲得して来た。

そして遂に 2015 年 12 月、安倍首相インド訪問の際に待望のインド高速鉄道事業にて日印協力合意に至り、高速鉄道人材育成が両国の重要課題となり 2016 年 5 月鉄道省派遣留学生 6 人を国費留学 1 期生として迎えた。昨年度の反省を踏まえて来年度に向けて大使館推薦国費で 2 期生を迎えるべく準備を進めている。

3-3-2) 留学コーディネーターウェブサイトの立ち上げ

留学コーディネーターのウェブサイトを、東京大学インド事務所のウェブサイトの一部を活用するかたちで立上げた。

日本語版は、日本国内の大学等に対して、日印学術交流とそれを通じたインド人留学生の獲得に役立つ情報を提供することを目的として、「1. 日印学術ネットワークリスト」「2. インド人留学生獲得の秘訣 コラム」「3. 留学コーディネーターからのインド情報」といったコンテンツを掲載に向けて、準備を開始した。英語版は「Why Japan?」として、生の日本留学の魅力を伝えるため、他大学にも協力を依頼して日本の大学に在籍するインド人学生の証言（顔写真付）を集めて掲載した。また、具体的な情報（英語による学位取得プログラム、奨学金 等）を掲載するべく、準備を開始した。

3-3-3) 産業界よりインド人留学生向け奨学金の手配

2014 年 9 月名古屋大学自動車工学部 1 年に入学したインド人女子留学生 1 名に CGC 社より奨学金を手配して留学を実現できたことに続き、昨年度は本学 PEAK に入学するインド人留学生 1 名分の奨学金をラーニングシステム社より手配して 9 月 PEAK 国際環境学コースに男子学生 1 名が入学できた。

なお、本年度もラーニングシステム社からインド人留学生向けの奨学金（1 名）の寄付を受け、留学生を募集している。

（参考）STEM KIKUCHI—UTokyo Scholarship

http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/fees_scholarships/index.html

3-3-4) その他

以下の業務を通じて、産官学ネットワークの構築または今後のネットワーク形成への基盤とした。

（ア） 留学生動態分析

1 1 月 米国のインド人留学生数の分析

1 月 東京大学のインド人留学生数の分析

3 月 全国のインド人留学生数の分析

（イ） 留学生/卒業生組織化と体験談寄稿の取組み

年間を通じて、活動を実施

（ウ） 留学情報発信、個別相談、問い合わせ対応

年間を通じて、活動を実施

（エ） 高校・大学・予備校・企業訪問

3 月 IIT-D 訪問、IIT カラグプール校訪問、IIT ボンベイ校訪問、
プネ大学訪問

3 月 Tata Consultancy Service(TCS) 訪問（インターンシップ連携相談）

（オ） イベントへの参加・協力

2 月 日本語センターボパール校開設記念式典・教育フェアにてスピーチ
バンガロール日本祭（於：バンガロール大学）にブース参加

3 月 ネルー大学主催日本文化祭にブース参加
インド鉄道省主催派遣留学生壮行会に参加

（カ） 現地入試への協力

3 月 PEAK（英語で学士取得）面接試験（於：事務所 TV 会議室）

（キ） 公式行事への協力

4 まとめ

JASSOによる平成27年度外国人留学生在籍状況調査結果が発表され、日本全体で208,379人、前年比13%、24,224人の増加。その内、インド人留学生数は879人（内本学68人）で前年721人（内本学48人）比21%増（本学41%増）と増加した。英語コースが知られるようになり私費の学部生が増えた（本学の場合1人→5人）ことは前年度に比べて大きな成果である。JASSOによる平成27年度外国人留学生在籍状況調査結果の内訳によると、私費による学部生は前年比54.6%増で国費/私費/学部/院生の区分のなかで最も著しい伸びが見られる。しかしながら米国に留学するインド人学生も増加しており、各教育機関への訪問による優秀インド人留学生の継続的な獲得と日本の強みを生かせる戦略的分野の策定、インド人留学生にとって日本留学が魅力的となる証言を集める広報にも注力していく。

インド留学コーディネーターが選ぶ2015年インド重大ニュースを発表し、日印交流の拡大がオールジャパンの取組であることを周知した。

以上が平成27年度委託業務成果の報告である。なお、最新のインド人留学生の数は次の通りである。

- 日本学生支援機構（JASSO）の公表した「平成27年度外国人留学生在籍状況調査結果」によると、日本の高等教育機関及び日本語教育機関におけるインド人留学生数は、平成27年5月時点で879人であり、前年度の同時点と比較して順調に増加した。
- 東京大学の公表した「国際交流関係統計資料」によると、東京大学におけるインド人留学生数は平成27年11月時点で71人であり、前回の調査（同年5月時点）と比較して国費留学生が減少（37人→36人）するなか、私費留学生は順調に増加（31人→35人）した。

完